

付着生物ラーバ情報

ミネフジツボの付着は終了しました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません (表1、図2)。

(2) キヌマトイガイ

ラーバは久栗坂沖で1.7個体/m³、川内沖で475.8個体/m³見られました (表1、図3)。

(3) ミネフジツボ

ラーバは川内沖で2.3個体/m³見られました (表1、図4)。

(4) その他

アミクサの小枝は奥内沖で1.7個/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

※今後の見込みは裏面にあります

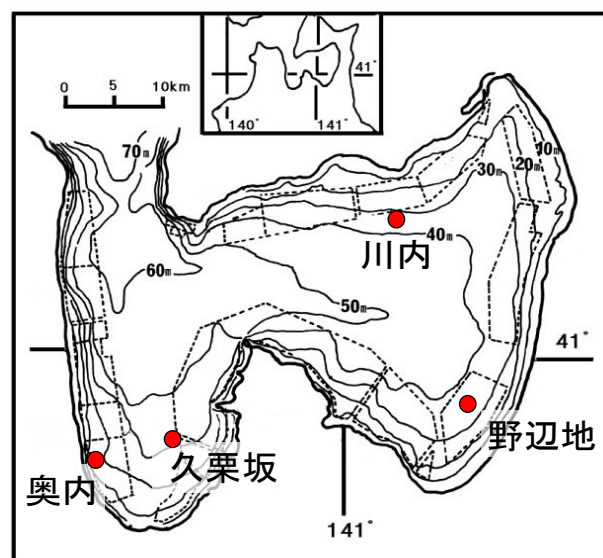


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
奥内沖	R4.2.18	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	1.7
久栗坂沖	R4.3.2	0.0	0.0	1.7	10.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R4.3.2	0.0	0.0	475.8	76.6	2.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

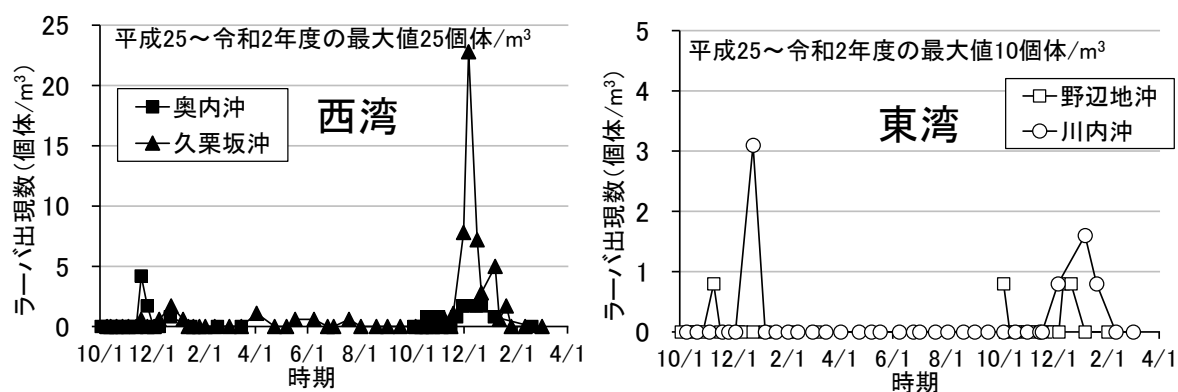


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年3月）

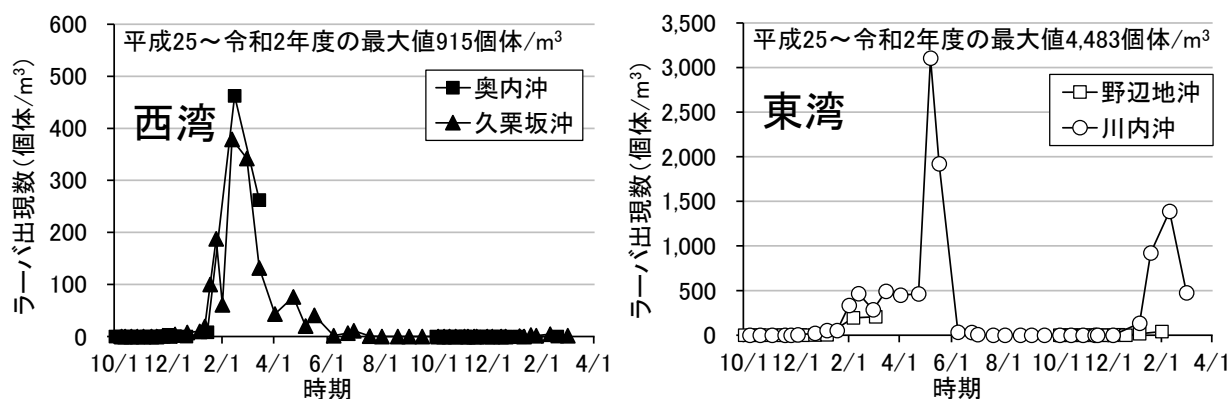


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年3月）

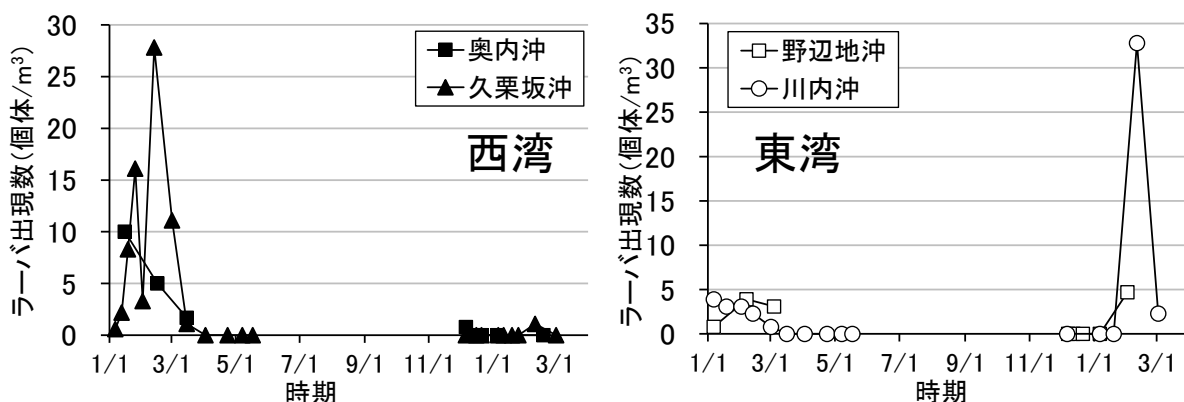


図4 ミネフジツボラーバ出現数の推移（令和3年1月～令和4年3月）

2 今後の見込み

ユウレイボヤの今季の久栗坂沖の累積ラーバ数は49.6個体/m³と非常に多く、分散済みのパールネットにユウレイボヤの大量付着が見られています。今春の半成貝の出荷作業効率は低下するものと思われます。

キヌマトイガイのラーバが見られていることから、今後、籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われます。

ミネフジツボの付着直前のラーバがわずかに見られる程度なので、付着はほぼ終了したと思われます。

アミクサ小枝の本格的な出現やオベリア類の付着は今月以降になるものと思われます。

